

第3章 南丹市の現状と課題

コメント 7

「南丹市現状と現状」となっていたため、修正しました。

1. 南丹市の現状

(1) 人口の推移

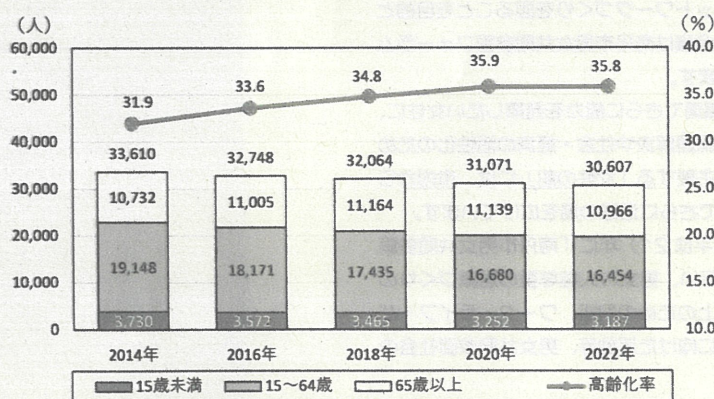
本市の人口は年々減少し、2022（令和4）年は2014（平成26）年と比較して3,003人（8.9%）減の30,607人となりました。

年齢3区分別の人口推移をみると、「15歳未満（年少人口）」と「15歳～64歳（生産年齢人口）」はともに減少しており、「65歳以上（老年人口）」においても2018（平成30）年まで増加傾向にあったものの、2020（令和2）年以降は減少に転じています。また、65歳以上の比率（高齢化率）は、2020（令和2）年まで増加していたものの、2022（令和4）年には減少に転じています。

以前より年少人口や生産年齢人口の減少傾向がみられましたが、近年では老年人口においても同様の傾向がみられ、人口減少に歯止めがかからない状況となっています。

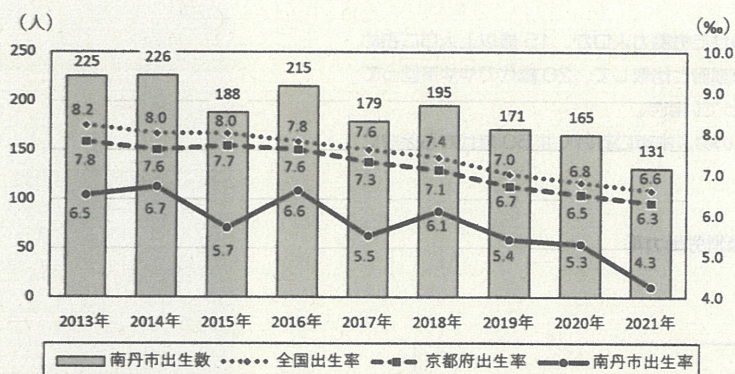
また、本市の出生率の推移をみると、増減を繰り返しながら減少傾向で推移しており、全国や京都府と比較しても低い水準で推移しています。出生率向上のためにも、女性だけに子育ての負担が偏らない施策が重要となっていることから、課題の解決に向けた取組が必要です。

■ 年齢3区分別人口と高齢化率の推移



資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

■出生数と出生率の推移



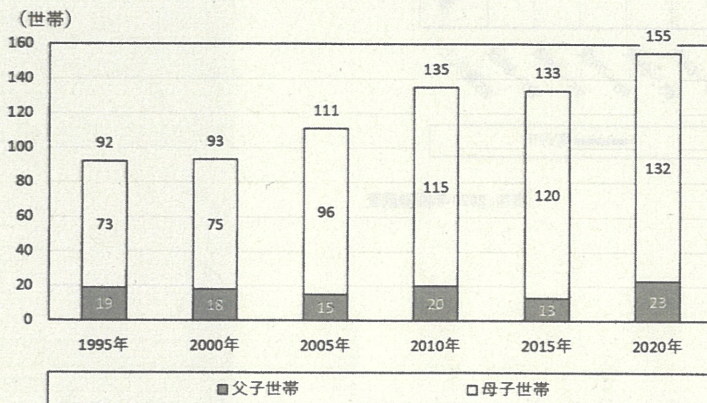
資料：南丹市調べ・人口動態統計（「京都府保健福祉統計年報」「厚生労働省年報」）（各年 10 月 1 日現在）

※「出生率」とは、人口 1,000 人あたりの出生数のこと。合計特殊出生率とは異なる。

（２）世帯の状況

ひとり親世帯数の推移をみると、1995（平成 7）年以降増加傾向にあり、2015（平成 27）年には減少したものの、2020（令和 2）年には増加に転じています。父子世帯・母子世帯ともに増加傾向にあり、特に母子世帯数は年々増加を続けています。全国的にも、ひとり親世帯の増加が課題となっていることから、個々に寄り添ったきめ細かな支援体制の取組が重要です。

■ひとり親世帯数の推移



資料：国勢調査（各年 10 月 1 日現在）

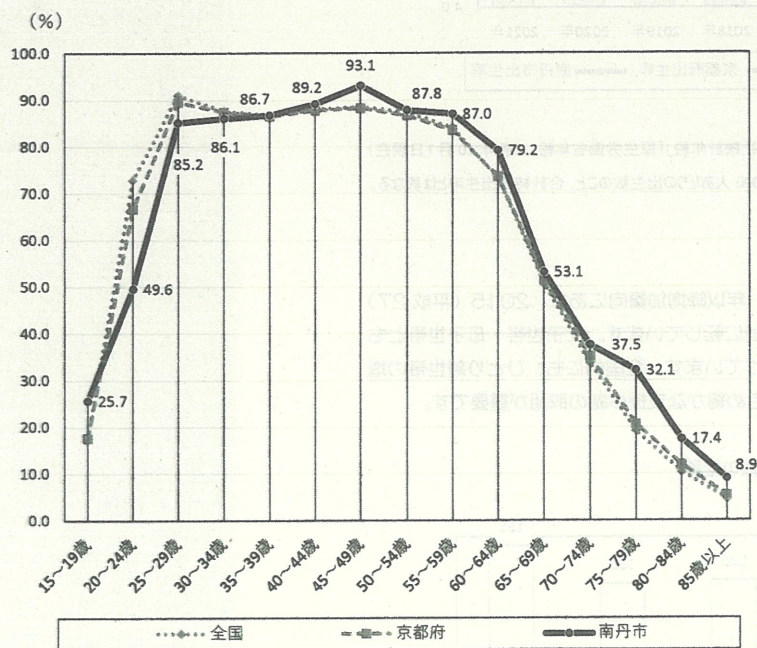
※「ひとり親世帯」とは、満 20 歳未満の未婚の子どもがいる母子または父子の家庭

(3) 女性の労働力率の状況

女性の労働力率（就業者数と完全失業者数とを合わせた労働力人口が、15歳以上人口に占める割合）を年齢5歳階級別にみると、本市は全国や京都府と比較して、20歳代でやや下回っているものの、35歳以上では全国や京都府よりも上回っています。

全国や京都府では30歳代で最も落ち込んでいるものの、本市においては50歳代から徐々に落ち込んでいる状況です。

■女性の年齢5歳階級別労働力率



資料：2020年国勢調査

(4) 市役所における男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスの状況

①審議会・委員会等での女性委員の割合

本市の審議会・委員会等における女性委員の割合においては、すべての審議会・委員会等で、女性委員が1人以上いるものの、現在においても女性が1割も満たない審議会・委員会等が存在しています。すべての審議会・委員会等において、女性委員の割合が国の目標である30%を超え、男女のバランスがとれるよう、引き続き取組を進めていく必要があります。

■女性の割合が多い審議会・委員会等

名称	委員総数 (人)	女性委員数 (人)	女性委員の割合 (%)
南丹市男女共同参画社会推進委員会	13	10	76.9
南丹市子ども・子育て会議	20	13	65.0
南丹市子育て発達支援センター運営委員会	15	9	60.0
南丹市情報公開審査会	4	2	50.0
南丹市個人情報保護審議会	4	2	50.0
南丹市景観審議会	8	4	50.0
南丹市権利擁護・成年後見センター運営委員会	6	3	50.0
南丹市放課後児童健全育成事業運営委員会	12	6	50.0
南丹市障害者支援施設運営委員会	15	7	46.7
南丹市指定管理者選定評価委員会	7	3	42.9

資料：南丹市調べ(2023年4月1日現在)

■女性の割合が少ない審議会・委員会等

名称	委員総数 (人)	女性委員数 (人)	女性委員の割合 (%)
南丹市都市計画審議会	19	1	5.3
南丹市の森林を考える会	17	1	5.9
南丹市民生委員推薦会	14	1	7.1
南丹市文化財保護審議会	13	1	7.7
南丹市農業振興推進協議会	13	1	7.7
南丹市防災会議	40	4	10.0
南丹市地域福祉計画推進委員会	20	2	10.0
南丹市障害者介護給付費等支給認定審査会	10	1	10.0
南丹市高齢者福祉センター運営委員会	10	1	10.0
南丹市国民保護協議会	39	4	10.3

資料：南丹市調べ(2023年4月1日現在)

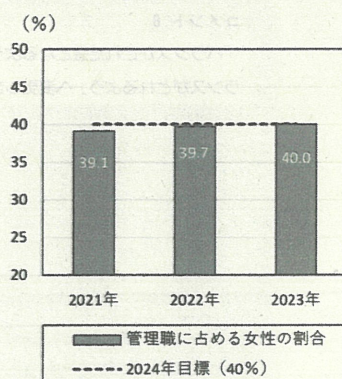
コメント 8

「バランスがとれた会となるよう」から「バランスがとれるよう」へ変更しました。

②女性管理職の割合

本市の管理職（課長級以上）に占める女性の割合は、2024（令和6）年度目標の40.0%に対し、2023（令和5）年度で40.0%となっており、目標を達成している状況です。引き続き、目標に対する実績が維持できるよう取組を進めていく必要があります。

■女性管理職の割合と人数内訳



		部長級	次長級	課長級	計
2021年	人数	12	6	51	69
	うち女性	1	2	24	27
	割合 (%)	8.3	33.3	47.1	39.1
2022年	人数	10	5	48	63
	うち女性	1	1	23	25
	割合 (%)	10.0	20.0	47.9	39.7
2023年	人数	13	4	48	65
	うち女性	1	1	24	26
	割合 (%)	7.7	25.0	50.0	40.0

資料：南丹市調べ

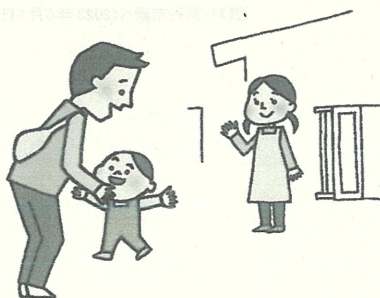
③男性職員の「配偶者出産休暇」「育児参加休暇」の取得率

男性職員の「配偶者出産休暇」「育児参加休暇」については、2020（令和2）年度以降取得率は減少しています。（2022（令和4）年度は対象者3人のうち、取得者は0人）

	2020(令和2) 年度	2021(令和3) 年度	2022(令和4) 年度	2024(令和6) 年度 【目標】
男性職員の「配偶者出産休暇」 「育児参加休暇」取得率 (%)	100.0	25.0	0.0	100.0

資料：南丹市調べ

コメント 9
西暦を追加しました。



④育児休業・部分休業の取得率

育児休業・部分休業については、女性は対象者全員が取得しており、男性の取得者においては2020年度と2021年度の比較では、増加していますが、その後2022年度には減少しています。今後も、男性の取得率の増加に向けた取組を促進する必要があります。

		2020(令和2) 年度	2021(令和3) 年度	2022(令和4) 年度	2024(令和6) 年度 【目標】
育児休業・部分休業の 取得率(%)	女性	100.0	100.0	100.0	100.0
	男性	14.3	37.5	25.0	50.0

資料:南丹市調べ

コメント 10

「2022(令和4)年度に減少したものの、2020(令和2)年度以降は増加傾向にあります。」から「2020年度と2021年度の比較では、増加していますが、その後2022年度には減少しています。」へ変更しました。

コメント 11

西暦を追加しました。

⑤1年間の時間外勤務が360時間を超える職員の割合

1年間の時間外勤務が360時間を超える職員の割合は、男女ともに増加傾向で推移し、男性よりも女性の方が高くなっています。

引き続き業務の見直しや効率化を進めていく必要があります。

		2020(令和2) 年度	2021(令和3) 年度	2022(令和4) 年度	2024(令和6) 年度 【目標】
1年間の時間外勤務が 360時間を超える職員 の割合(%)	女性	3.47	6.39	6.51	3%以下
	男性	4.10	4.47	4.56	

資料:南丹市調べ

コメント 12

西暦を追加しました。

⑥年次有給休暇の平均取得日数

年次有給休暇の平均取得日数は、増減はあるものの増加傾向で推移しています。引き続きワーク・ライフ・バランスの推進に向けて、取得を促進していく必要があります。

	2020(令和2) 年度	2021(令和3) 年度	2022(令和4) 年度	2024(令和6) 年度 【目標】
年次有給休暇の平均取得日数 (日)	9.3	10.3	10.1	15日以上

資料:南丹市調べ

コメント 13

西暦を追加しました。

2. 市民意識調査からみる現状

本計画の基礎資料とするため、2023（令和5）年1月に市民意識調査を実施しました。

- ◇調査対象：南丹市在住の18歳以上（2023年1月現在）の男女（無作為抽出法）
- ◇調査期間：2023（令和5）年1月18日（水）～1月31日（火）
- ◇調査方法：郵送配布・郵送回収による郵送調査法、WEBによるオンライン回答
- ◇回収数：配布数 1,500件／回収数 521件／回収率 34.7%

コメント 14

「市民意識調査からみる現状と課題」を「市民意識調査からみる現状」に変更しました。

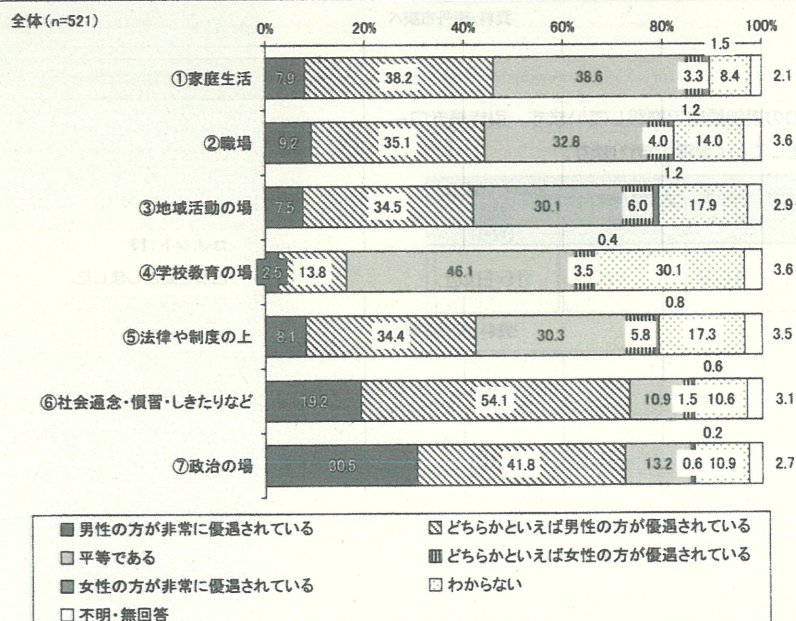
（1）男女平等に関する意識について

①男女の地位の平等感。（〇は1つだけ）

『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が高い項目については、「⑥社会通念・慣習・しきたりなど」が73.3%と最も高く、次いで「⑦政治の場」が72.3%、「①家庭生活」が46.1%となっています。

「平等である」が高い項目については、「④学校教育の場」が46.1%と最も高く、次いで「①家庭生活」が38.6%、「②職場」が32.8%となっています。

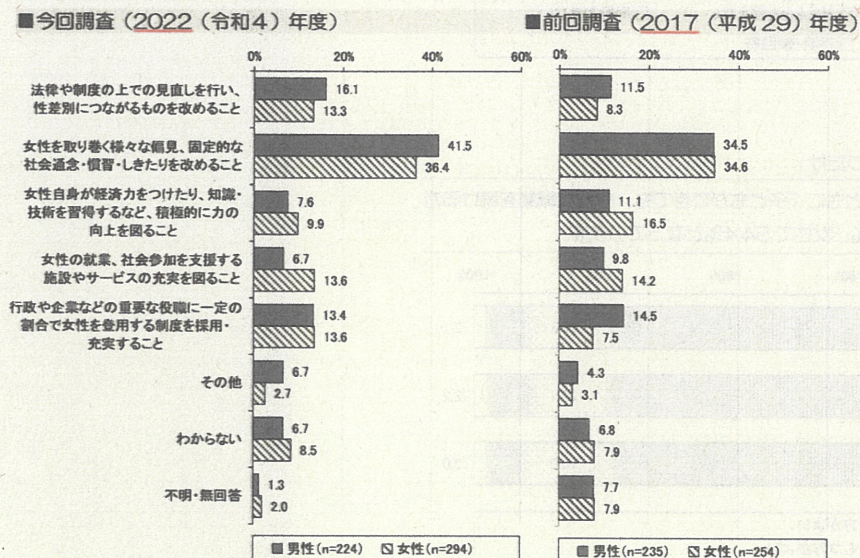
『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計）は、各項目で10%を下回っており、最も高い項目では「③地域活動の場」が7.2%、次いで「⑤法律や制度の上」が6.6%、「②職場」が5.2%となっています。



②男女平等の社会にするために必要なこと。(〇は1つだけ)

男女平等の社会にするために必要なことについてみると、男女ともに「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること」が最も高くなっており、男性で41.5%、女性で36.4%となっています。次いで、男性では「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」が16.1%となっており、女性では「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」「行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」でそれぞれ13.6%となっています。

前回調査と比較すると、男性では「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること」が7.0ポイント高く、女性では「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」が6.6ポイント低くなっています。

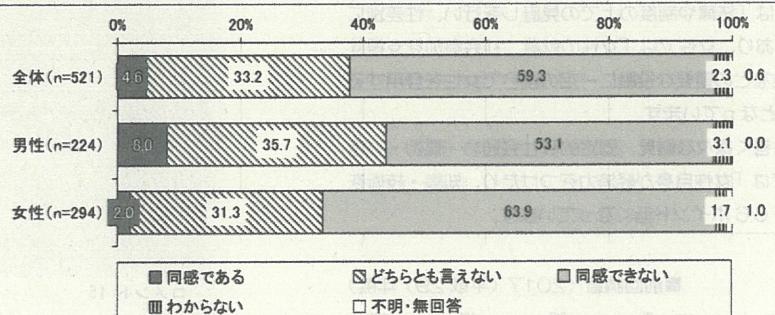


コメント 15

西暦を追加しました。

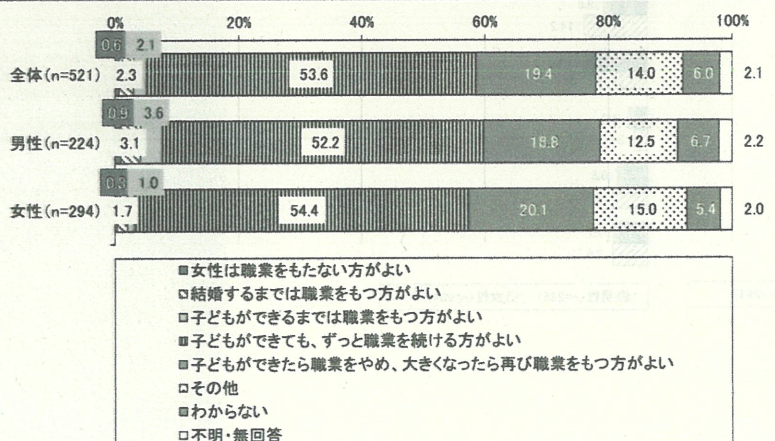
③「男は仕事、女は家庭」という考え方について。(〇は1つだけ)

男女ともに「同感できない」が最も高くなっており、男性で53.1%、女性で63.9%となっています。また、「同感である」は男性(8.0%)が女性(2.0%)を6.0ポイント上回っています。



④女性が職業をもつことについて。(〇は1つだけ)

女性が職業をもつことについてみると、男女ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も高くなっており、男性で52.2%、女性で54.4%となっています。



(2) 地域・社会活動について

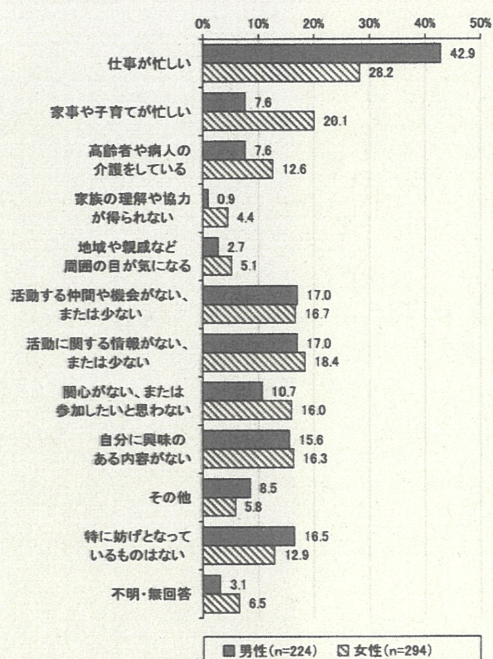
①仕事以外の活動の支障になっていること、今後支障となるであろうと思われること。

(あてはまるものすべてに○)

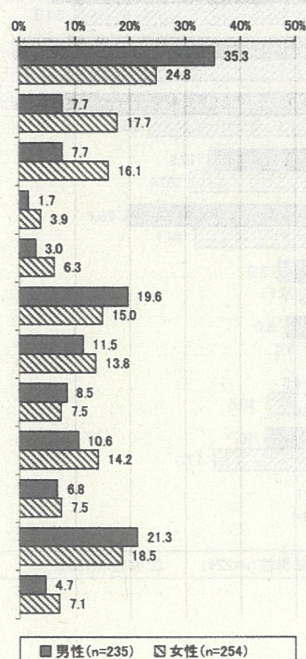
地域活動の支障となっていることについてみると、男女ともに「仕事が忙しい」が最も高くなっており、男性で42.9%、女性で28.2%となっています。次いで、男性では「活動する仲間や機会がない、または少ない」「活動に関する情報がない、または少ない」がそれぞれ17.0%となっており、女性では「家事や子育てが忙しい」が20.1%となっています。

前回調査と比較すると、男性では「仕事が忙しい」が7.6ポイント、女性では「関心がない、または参加したいと思わない」が8.5ポイント高くなっています。

■今回調査(2022(令和4)年度)



■前回調査(2017(平成29)年度)



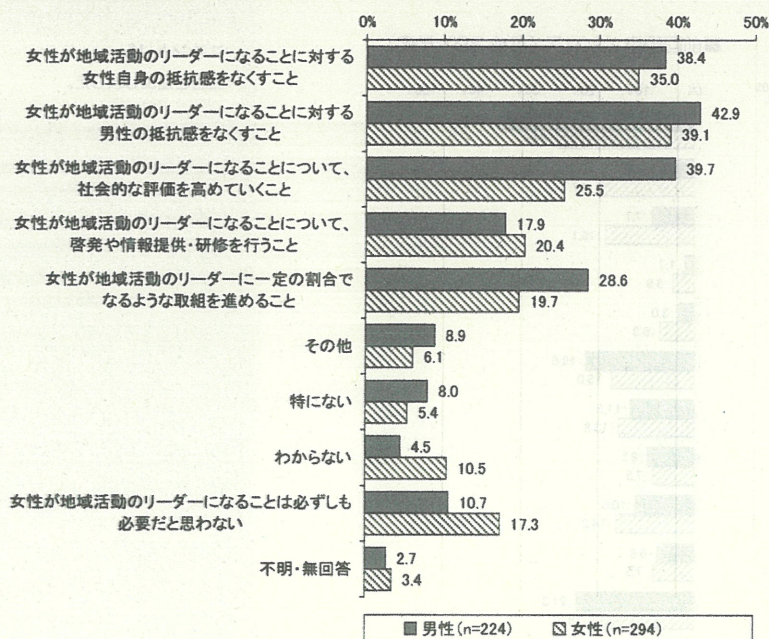
コメント 16

西暦を追加しました。

②女性が地域のリーダーになるために必要なこと。(あてはまるものすべてに○)

女性が地域のリーダーになるために必要なことについてみると、男女ともに「男性の抵抗感をなくすこと」が最も高くなっており、男性で42.9%、女性で39.1%となっています。次いで、男性では「社会的な評価を高めていくこと」が39.7%、「女性自身の抵抗感をなくすこと」が38.4%となっており、女性では「女性自身の抵抗感をなくすこと」が35.0%、「社会的な評価を高めていくこと」が25.5%となっています。

女性と比較し、男性では「社会的な評価を高めていくこと」が14.2ポイント、「女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること」が8.9ポイントそれぞれ高くなっています。また、男性と比較し、女性では「女性が地域活動のリーダーになることは必ずしも必要だと思わない」が6.6ポイント高くなっています。

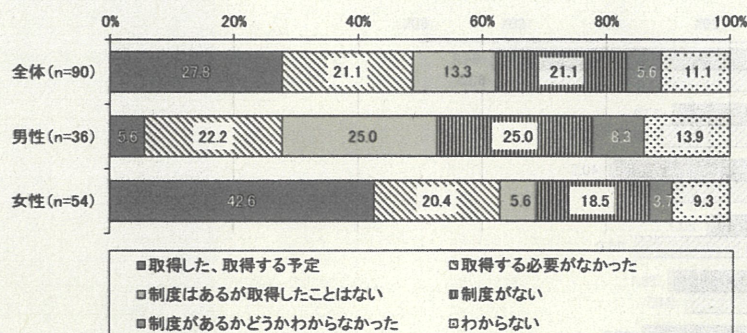


(3) 就労・働き方について

①育児休暇の取得状況。〔就学前の子どもがいる方（妊娠中も含む）への質問〕（○は1つだけ）

育児休業の取得についてみると、男性では「制度はあるが取得したことはない」「制度がない」がそれぞれ25.0%と最も高くなっており、女性では「取得した、取得する予定」が42.6%と最も高くなっています。

「取得した、取得する予定」においては、男性と比較し女性が37.0ポイント高くなっています。

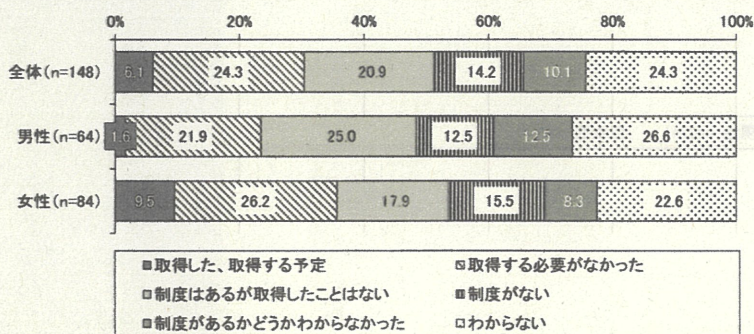


※「不明・無回答」を除く回答のみ集計

②介護休暇の取得状況。〔介護が必要な親族がいる方（いた方）への質問〕（○は1つだけ）

介護休業の取得についてみると、男性では「わからない」が26.6%と最も高くなっており、女性では「取得する必要がなかった」が26.2%と最も高くなっています。

「取得した、取得する予定」においては、男性と比較し女性が7.9ポイント高くなっています。



※「不明・無回答」を除く回答のみ集計

③女性が働き続けるために必要なこと。(〇は3つまで)

女性が働き続けるために必要なことについてみると、男女ともに「男女ともに育児・介護休業が取得しやすいようにする」が最も高くなっており、男性で64.3%、女性で63.3%となっています。次いで、男性では「育児などで退職した人を再び雇用する制度を普及させる」が40.2%、「職業における男女差別をなくし、待遇面（給与・昇進等）で能力に応じた評価を行う」が33.5%となっており、女性では「パートタイマー・派遣労働者の労働条件を改善する」が35.0%、「女性が働くことに対して、家族や周囲が理解・協力する」が33.7%となっています。

